

IWAKI IR

株主の皆様へ
第79期 事業報告書
2017年12月1日▶2018年11月30日

Report



- P1 トップメッセージ
代表取締役社長 岩城 慶太郎
- P5 セグメント別の概況
- P7 連結財務・非財務ハイライト
- P8 小さな社会貢献活動への取り組み
- P9 イワキグループネットワーク
- P10 会社概要・株式情報
- 裏表紙 アンケートのお願い・ホームページのご案内



イワキ株式会社

証券コード：8095





株主の皆様におかれましては、平素より当社グループへのご理解と厚いご支援を賜り、誠にありがとうございます。

ここに第79期(2017年12月1日から2018年11月30日まで)における営業状況をご報告し、中期経営計画の進捗と今後の事業展開についてご説明させていただきます。ご一読の上、さらなる飛躍を目指す当社グループに引き続きお力添えを賜りますようお願い申し上げます。

2019年2月

イワキ株式会社
代表取締役社長

岩城 慶太郎

全事業で増収、営業利益の過去最高を連続更新

当期(2018年11月期)の連結業績は、売上高が全事業セグメントのプラス成長により全体で600億円を突破し、営業利益は2期連続で過去最高益を更新するという好成果を収めることができました。利益面は当初、医薬・FC事業における薬価改定の影響などを見込んで減益を想定していましたが、結果として各段階利益とも2ケタの増益を果たしました。

表紙写真

(上段): 2018年10月「くすりのまち」日本橋本町にて薬祖神社例大祭が行われました。今回も多くの社員が参加し、一年の無病息災を祈願しました。

医薬・FC事業は、主力品の伸びに加え、2018年4月の薬価改定によりステロイド・抗生物質配合剤「デルモゾールG」が「基礎的医薬品」の指定を受け、同製品の薬価が従来約3.5倍に上昇したことから、利益が大幅に増加しました。これがグループ全体の増益に大きく寄与しています。

売上高の4割以上を占めるHBC事業は、引き続き卸売分野における一般用医薬品や化粧品等のインバウンド需要が増加し、原料分野も堅調を維持しました。本

(下段): 2018年9月25日、新しい分析棟・倉庫「IWノースキューブ」の地鎮祭が行われました。今年の9月に竣工を予定しています。

事業では、特に原料分野で需要状況による利益変動が生じがちでしたが、ここにきてトレンドが持続し、安定的に推移している状況です。

当期はまた、化学品事業の収益改善も全体の増益に寄与しました。表面処理薬品分野では、2018年6月に日立化成株式会社から譲り受けたプリント配線板用薬品事業が下期の業績に貢献しました。今後は製造面における原価低減効果など、同事業譲受による本格的なシナジーが期待できると考えています。

食品事業は、健康志向食品向け原料の需要増加などにより売上高を伸ばしましたが、黒字化には至りませんでした。しかし販売の拡大については、当社グループがこだわる高い品質基準の保持や国内・海外の複数ソースの提供などによる価値が市場の評価を得ている証左と捉えています。

3年後の売上高700億円へ、事業投資を加速

2025年11月期に向けて策定したグループ中長期ビジョン「Vision “i-111”」は、最終年度の連結業績における「売上高1,000億円」「ROIC(投下資本利益率)10.0%以上」「No.1マーケットシェア」を目標に掲げ、4つの基本理念「策揃え企業になる」「ナンバーワン製品・事業に注力する」「海外市場への事業展開を図る」「資本効率を意識した事業運営を行う」

の実現を目指すものです。そのステップとして、3カ年の中期経営計画をローリング*しています。

当期の実績は「売上高600億8千3百万円」「営業利益18億4千9百万円」「ROIC 5.9%」となり、2020年11月期目標の「売上高650億円」「営業利益21億円」「ROIC 7.0%以上」に対し、利益成長が先行しつつオンラインの進捗を示しています。売上成長がやや弱含みとなっているのは、積極化を予定していた事業投資の進捗が遅れ、2件の実施にとどまったことが主な要因と言えるでしょう。今後は、新たな事業展開を通じてグループの成長性をさらに高めるべく、事業投資による取り組みを一層加速していく方針です。

こうした進捗状況を踏まえ、今回発表した3カ年の中期経営計画は、2021年11月期の連結業績における「売上高700億円」「営業利益28億円」「ROIC 8.0%以上」を目標に掲げました。3年間の年平均成長率は売上高が5.4%、営業利益が18.3%となりますが、これは従来の目標値と同水準です。

*経営環境の変化等に柔軟に対応するため、毎期計画を見直し・改定する方式

各事業セグメントにおける中長期成長への展望

グループ中長期ビジョンおよび3カ年の中期経営計画達成に向けた今後の展望を事業セグメントごとに述べますと、医薬・FC事業では、ジェネリック



医薬品の伸長率が低下しつつあるものの、当社グループの強みである外皮用剤はジェネリック医薬品への転換率が低く、当面は伸びしろが見込める状況です。また2019年からはジェネリック抗がん剤の導入が本格化すると見られており、その需要を取り込んでいきます。

HBC事業では、卸売分野においては、インバウンドが続くなかでアジア圏への越境ECなどによる海外販売を強化しています。原料分野においても海外売上高比率の拡大に注力していく考えです。

化学品事業では、半導体と受動部品の成長2領域において、車載センサー関連を中心とする自動車分野のさらなる需要拡大に伴う関連薬品の需要を確実に取り込

んでいくことで、成長に陰りが見られるマルチメディア分野の減速をカバーし、収益改善を果たしていきます。また、日立化成株式会社から譲り受けたプリント配線板用薬品事業は、今春の製造移管完了を予定しており、これによるコスト効果を発揮しつつ、プリント配線板向け薬品のラインナップを拡充します。

食品事業は、健康志向食品をターゲットとする原料分野の提案・拡販に注力し、高品質とマルチソースの提供を武器に市場シェアの獲得を目指します。

グループビジョン推進室が目指す変化への対応

2017年12月に社長直轄の「グループビジョン推進室」を設置し、1年が経過しました。当社グループの環境保全対応や働き方改革、ダイバーシティの促進などを具現化する部署として、さまざまな角度からアプローチを行っています。

現在、障がい者雇用や子育て・介護世代支援、社員教育の拡充、福利厚生改善、テレワークの導入などへの取り組みを進めています。このうちテレワークについては、在宅勤務を実施するための制度整備を図り、障がい者雇用については、都内にある業務センターで障がいを持つ方の採用に向けての職場体験実習を開始しました。

グループビジョン推進室を設置した目的は、当社グループの変化への対応力を高め、イノベーションを生み出す土壌を築いていくことにあります。100年を超える歴史を持つ当社グループには、長きにわたって企業文化を培い継承してきた中で、ともしれば「変化すること」に対する抵抗感や弱さをはらんでしまう可能性があると思います。そうした変化への対応力をグループ内に根付かせ、新たな価値を創出する風土づくりにつなげていくことを狙いとしています。

今後は、SDGs(持続可能な開発目標)への対応やESG(環境・社会・ガバナンス)経営に関するアプローチについても、このグループビジョン推進室を中心とする体制で取り組み、当社グループ事業におけるテーマの棚卸しから着手していく考えです。

人事制度改革を実施、変化へのシグナルに注目

今期(2019年11月期)の連結業績は、売上高630億円、営業利益20億円、親会社株主に帰属する当期純利益15億5千万円、ROIC 6.0%を予想しています。引き続き増収・増益を維持し、営業利益については3期連続の過去最高益更新を目指します。

利益成長については、近年の伸びに比べて一時的な鈍化を想定していますが、これは将来への投資として人事制度改革を実施しており、人件費の上昇を見込んでいることなどによるものです。同時に今期は、先に述べました通り事業投資による取り組みを加速すべく、着実に実行していきます。

なお、株主の皆様への配当については、2018年11月期実績の年間1株当たり10円50銭(中間5円・期末5円50銭)から、今期は同11円(中間5円50銭・期末5円50銭)に増配させていただく予定です。「純資産配当率(DOE)1.5%を下限とし、配当性向30%を目途」とする配当方針に則り、安定性と業績連動性を考慮しつつ、増配の維持に努めてまいります。

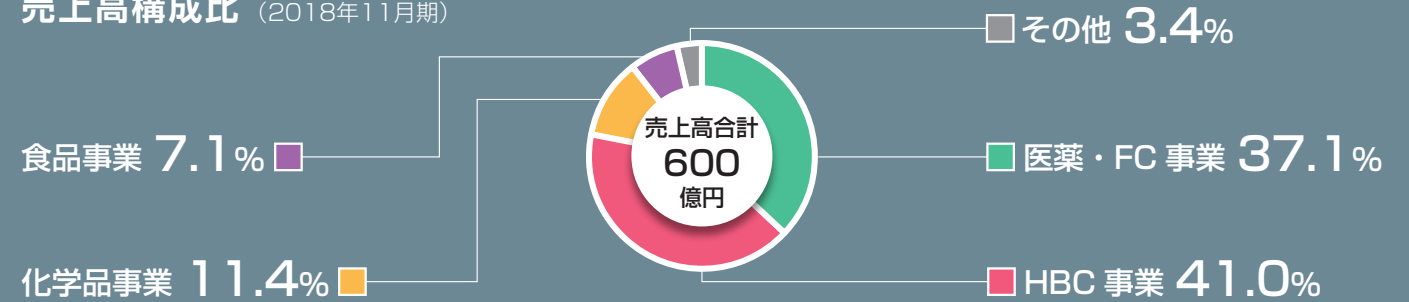
私が代表取締役社長に就任し、3年目に入りました。今期からは、元来アグレッシブな性格である私らしいアウトプットを意識し、変化へのシグナルを打ち出していくつもりですので、ぜひご注目ください。引き続き株主・投資家の皆様に安心して当社株式を長期保有していただけるよう企業価値を高め、ご期待に応えてまいります。

代表取締役社長 岩城 慶太郎

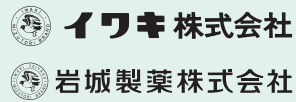
セグメント別の概況

お取引先様の課題解決に向けた様々なニーズに当社グループのあらゆる機能で応える「策揃え」を実現し、変革スピードを向上させるため、プロダクト毎のバリューチェーンに従って医薬・FC (Fine Chemical) 事業、HBC (Health & Beauty Care) 事業、化学品事業、食品事業の4つの事業を展開しています。

売上高構成比 (2018年11月期)



医薬・FC事業



※FC=Fine Chemical

● 事業内容

医薬品原料・医薬品の開発・製造から販売、また臨床検査薬などの販売も行っています。



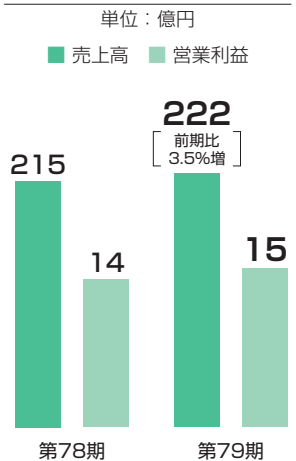
● 当期のポイント

医薬品原料分野では、新規の消化器改善剤原料・抗血液凝固剤原料などの売上が大幅に伸長。

自社製造の解熱鎮痛剤・ビタミン剤原料・抗アレルギー剤、また米国向けの血管収縮剤原料の販売も好調に推移。

医薬品分野では、特に外皮用剤の抗真菌剤や副腎皮質ホルモン剤など主力品の売上が大幅に伸長。

○ 業績推移 ○



HBC事業



※HBC=Health & Beauty Care

● 事業内容

一般用医薬品、化粧品原料・機能性食品原料の販売、化粧品の通信販売及びOEMなどを行っています。



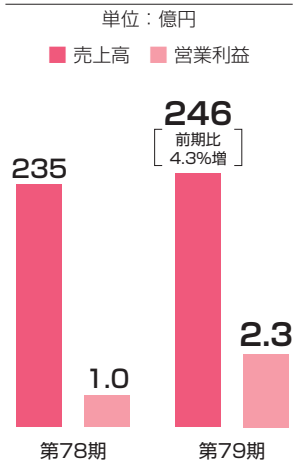
● 当期のポイント

機能性食品原料及び化粧品原料分野は、全体的に堅調に推移。

一般用医薬品を主体とした卸売分野では、海外向け販売の好調やインバウンド需要の好影響もあり、既存顧客との取引が拡大し伸長。

通販化粧品分野は、広告宣伝、既存顧客向けのプロモーション、また販売促進の効率的な運用により堅調に推移。

○ 業績推移 ○

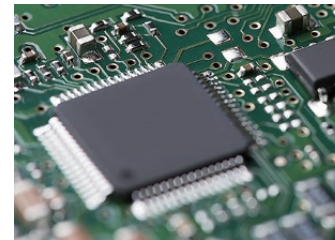


化学品事業



● 事業内容

表面処理薬品の製造・販売、化学品原料などの販売を行っています。

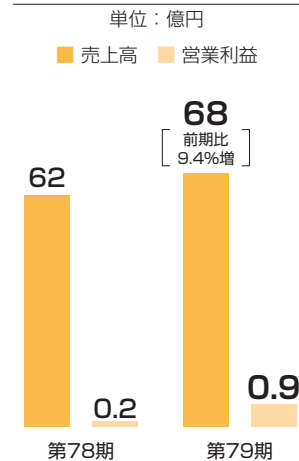


● 当期のポイント

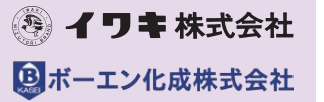
表面処理薬品分野では、プリント配線板向けは、海外を中心に銅めっき添加剤の新規販売が伸長。電子部品向けは、受動部品向け薬品の需要増加により好調に推移。

表面処理設備分野では、国内の部品販売やメンテナンス販売が伸長。また中国において、FPC (フレキシブルプリント回路) 基板製造企業を中心とした販売促進が出来たことにより、好調に推移。

○ 業績推移 ○



食品事業



● 事業内容

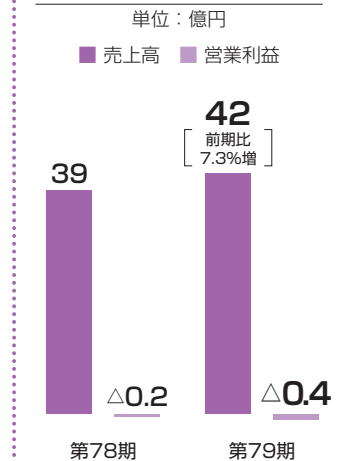
食品原料などの製造・販売を行っています。



● 当期のポイント

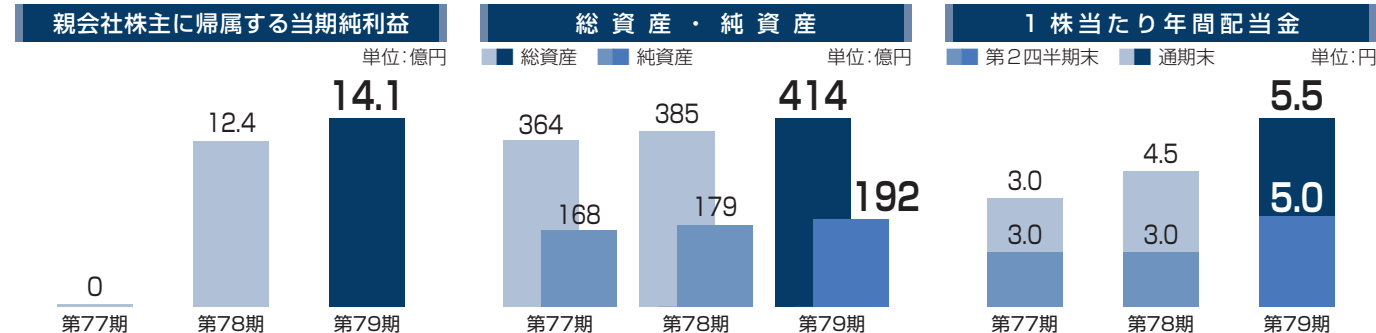
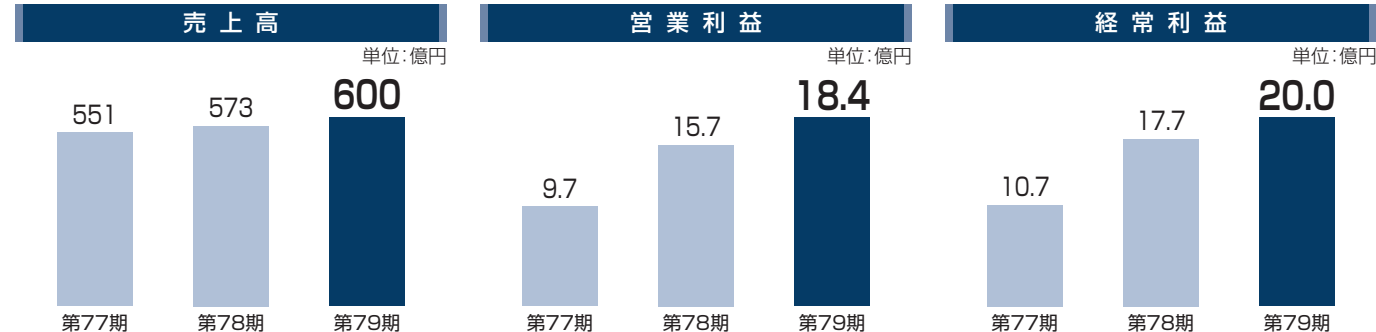
食品原料分野では、新規受注の獲得、既存原料の新規受注の獲得、既存原料の拡販活動による販売増加、健康志向食品向け原料の需要増加により、売上は堅調に推移。

○ 業績推移 ○



連結財務・非財務ハイライト

売上高	第78期 573億円	→	第79期 600億円
営業利益	15.7億円	→	18.4億円
経常利益	17.7億円	→	20.0億円
親会社株主に帰属する当期純利益	12.4億円	→	14.1億円



ROIC (投下資本利益率) 中長期ビジョン「Vision「i-111」」 目標値10.0%に向けて着実に進捗 5.9%	デルモゾールG薬価 上昇率 2期連続の過去最高営業利益に 大きく貢献 約3.5倍	受動部品向け 中性すずめつき薬品世界シェア ニッチマーケットで 地位を確立 No. 1	ドクターズコスメ 「NAVISION」ラインナップ 美容医療研究から生まれた 化粧品販売に注力 約37品目
--	--	---	---

小さな社会貢献活動への取り組み (2018年12月31日現在)

救命講習について

2018年8月10日、イワキ本社にて、AEDの使用
方法・人工呼吸ほか応急手当てに関する講習会を実施
しました。
初めてAEDを使用する方から受講経験者まで、いざ
救助の時に使えるよう積極的に参加しました。

清掃活動について

2018年10月20日、メルテックスで働く従業員と
その家族にて事業所周辺の道路、公園を中心とした清
掃活動を実施しました。また11月28日、熊谷工場に
おいても工場周辺の清掃活動を行いました。
清掃活動を通して、今後も地域の環境美化に貢献し
てまいります。

献血について

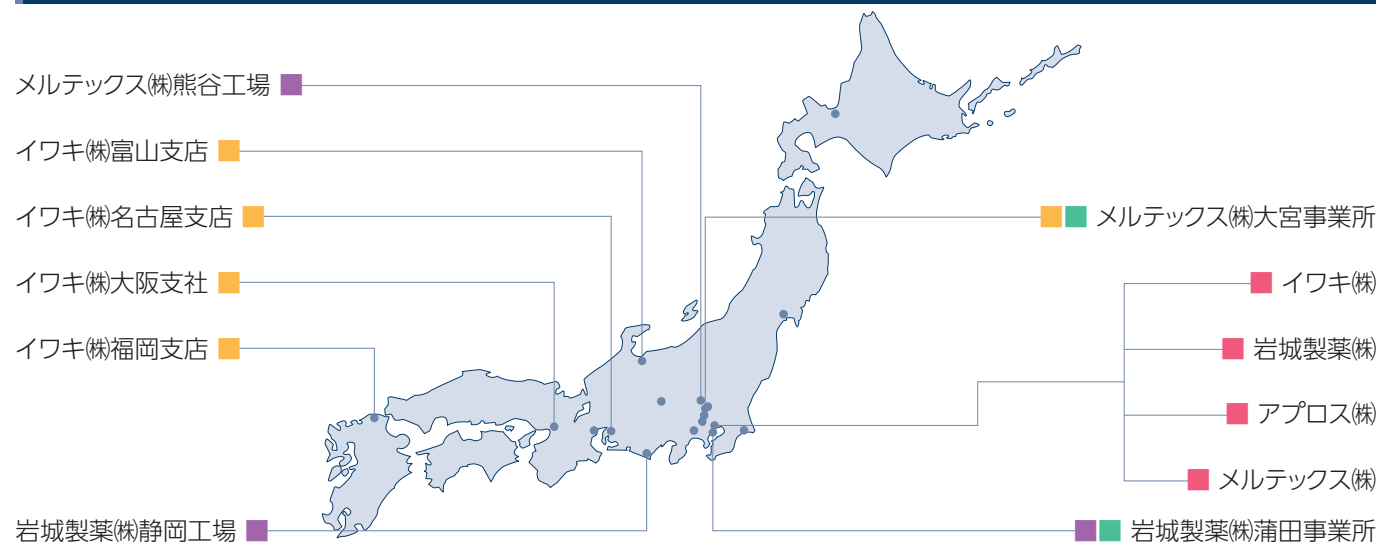
2018年12月19日、メルテックス熊谷工場におい
て献血活動を実施しました。今回も多くの社員が献血
に協力しました。
今後も継続して実施していきます。

アダプト活動について

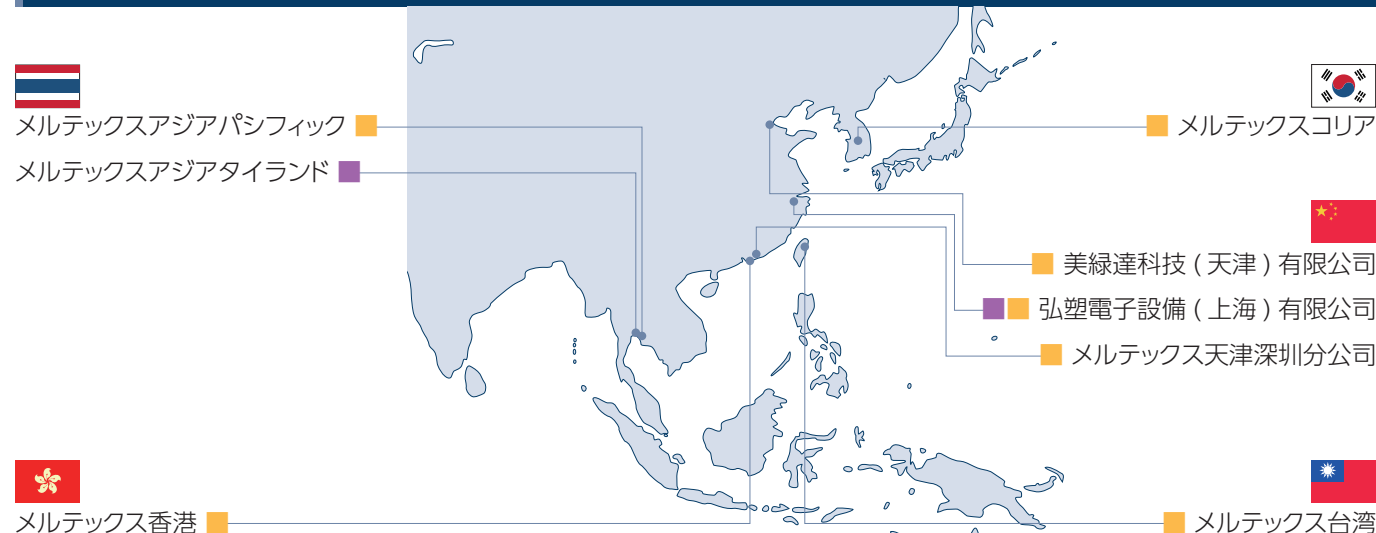
2012年から参加している「中央区緑のアダプト活動」
に岩城製薬が今年も参加しました。
東京都中央区保有の花壇を区に代わって管理・運営
しており、年4回の花の植替え、日々の水撒きや雑草
取りなどを実施しております。

イワキグループネットワーク (2018年11月30日現在)

(主要) 国内ネットワーク



海外ネットワーク



会社概要

会社概要

(2018年11月30日現在)

社名	イワキ株式会社
本社所在地	東京都中央区日本橋本町四丁目8番2号
創業	1914年(大正3年)7月10日
設立	1941年(昭和16年)9月20日
資本金	26億3千7百万円(東証1部上場)
社員数	(単体) 293名 (連結) 954名
主な事業内容	医薬・FC事業 HBC事業 化学品事業 食品事業
主な事業所	・大阪支社 大阪府大阪市 所在地 富山支店 富山県富山市 ・名古屋支店 愛知県名古屋市 ・福岡支店 福岡県福岡市
主要取引銀行	三菱UFJ銀行、みずほ銀行、三井住友銀行

取締役および監査役

(2019年2月22日現在)

代表取締役会長	岩城 修	社外取締役	越智 大藏
代表取締役社長	岩城 慶太郎	社外取締役	川野 毅
常務取締役	大森 伸二	社外取締役	二之宮 義泰
常務取締役	今野 高章	常勤監査役	山口 誠
取締役	熱海 正昭	常勤監査役	磯部 俊光
取締役	瀬戸口 智	監査役	安永 雅俊
取締役	古橋 勝美	監査役	秋山 卓司

株主メモ

事業年度	毎年12月1日～翌年11月30日
期末配当金受領株主確定日	毎年11月30日
中間配当金受領株主確定日	毎年5月31日
定時株主総会	毎年2月
株主名簿管理人	三井住友信託銀行株式会社
特別口座の口座管理機関	三井住友信託銀行株式会社
同連絡先	三井住友信託銀行株式会社 証券代行部 〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 電話：0120-782-031 (フリーダイヤル)
上場証券取引所	東京証券取引所
公告の方法	電子公告により行う。 公告掲載URL https://www.iwaki-kk.co.jp/ (ただし、電子公告によることができない事故、その他のやむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に公告いたします。)

- (ご注意) 1. 株主様の住所変更、買取請求その他各種手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人(三井住友信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
2. 特別口座に記録された株式に関する各種手続きにつきましては、三井住友信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関(三井住友信託銀行)にお問合せください。なお、三井住友信託銀行全国各支店にてもお取次ぎいたします。
3. 未受領の配当金につきましては、三井住友信託銀行本支店でお支払いいたします。

株式情報 (2018年11月30日現在)

株式の状況

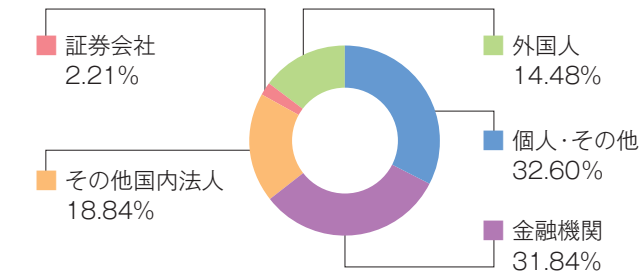
発行可能株式総数	136,000,000株
発行済株式の総数(自己株式909,332株を含む)	34,508,789株
株主数	4,199名

大株主(上位10名)

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
株式会社ケーアイ社	3,771	11.22
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	3,089	9.19
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	1,868	5.56
株式会社三菱UFJ銀行	1,188	3.53
岩城修	970	2.88
イワキ従業員持株会	868	2.58
DFA INTL SMALL CAP VALUE PORTFOLIO	820	2.44
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(役員報酬引当信託口・76082口)	764	2.27
株式会社大阪ソーダ	658	1.95
株式会社みずほ銀行	543	1.61

(注)持株比率は自己株式(909,332株)を控除して計算しております。

株式分布状況(所有者別分布状況)



(注) 小数点第2位まで記載(第3位以下は切り捨て)しております。持株比率は自己株式(909,332株)を控除して計算しております。

アンケートのお願い

当社では、株主の皆様の声を伺い、株主様とのコミュニケーションの充実を図ってまいりたいと考えております。

お手数をおかけしますが、本冊子に同封のアンケートへのご協力をお願いいたします。



締切日：2019年5月31日

ホームページのご案内

イワキグループのホームページでは、様々な企業情報やIR情報をお届けいたします。

どうぞお気軽にアクセス、ご利用ください!

スマートフォンでも
ご覧いただけます。



皆様方からのアクセスをお待ちしております!

<https://www.iwaki-kk.co.jp/>

▲ 各事業内容のご紹介は勿論のこと、当社事業の強みや特徴などについても詳しくご説明しています。



イワキ 株式会社

〒103-8403
東京都中央区日本橋本町四丁目8番2号
電話：03-3279-0481



環境保全のため、FSC®認証紙と植物油インキを使用して印刷しています。